

CO・OP

京都の生協

2015/January/No. 85
京都府生活協同組合連合会



自由と平等を追求するノルウェーの福祉社会

—— 多様な人びとの社会的関心と政治参加が社会を支える ——

TalkTalk トークとーく

●ノルウェー王国大使館 参事官 スノーフリッド・B・エムテルードさん

●京都府生活協同組合連合会 会長理事 ^{かみ}上 ^{かけ}掛 ^{とし}利 ^{ひろ}博

対談

TalkTalk

トークとーく

自由と平等を追求するノルウェーの福祉社会 — 多様な人びとの社会的関心と政治参加が社会を支える —

ノルウェー王国大使館 参事官 スノーフリッド・B・エムテルドさん

京都府生活協同組合連合会 会長理事 上掛利博

ゆきとどいた福祉サービスのもと、性別、年齢、障がいの有無、国籍を問わず、すべての人が、人間らしく働き、生活できる社会をめざすノルウェー。それを支えてきたのは、社会に関心を寄せ、政治に積極的に参加しようとする国民一人ひと

りであり、国もまた、平等や機会均等を推進する政治的意思をうけつらぬいていると、スノーフリッドさんは力強く語ります。

(2014年10月24日に京都府立大学でおこなわれた京都ノルウェーゼミ20周年記念、府民公開特別講義「ノルウェーの男女平等とそれを支える社会福祉制度」司会：上掛利博)の後、お話をうかがいました。通訳：ノルウェー王国大使館広報担当 仙波亜美さん)

「人は平等である」という価値観

上掛 1994年にわたしが文部省の在外研究員として家族と一緒にノルウェーに住んでいたとき、当時、11歳と6歳の息子たちは毎日、森を散歩し、たくさんのキノコや鳥やヘラジカと出会って、大喜びしていました(笑)。それは彼らがおとなになっていくうえで、とても大切な時間だったと思います。

スノーフリッド お子さんに喜んでいただけしたこと、たいへんうれしく思います。ノルウェーは、長い冬の間、昼でも薄暗い天気が続きますので、人びとは春になるのを待ちわびて、森や湖に出かけていきます。

上掛 そういう豊か度かつ厳しい自然環境が、健康や福祉を重視し、ひいては人権や民主主義に高い関心を寄せるノルウェーの人びとの国民性につながっているのでしょうか。

スノーフリッド たしかに屋外で過ごす時間を大切にしたり、自然のなかで活動することが、ノルウェー人の生活に大きな位置を占めているのは事実だと思いますが、ノルウェーでは伝統的に「人は平

ノルウェー王国の概要 (2014年1月現在)

- 人口：511万人 (日本の約25分の1)
- 面積：38万km² (日本とほぼ同じ)
- 政体：立憲君主制 (ハーラル5世国王)
- 公用語：ノルウェー語 (2種類)、サーメ語、ノルウェー手話
- 宗教：キリスト教プロテスタント
- 通貨：1ノルウェークローネ (NOK) = 17.12円

C/O/N/T/E/N/T/S

トークとーく対談	防災学習会開催	●京都の生協理事長懇談会
自由と平等を追求するノルウェーの福祉社会	京都府総合防災訓練	●京都の生協活動功労者表彰式
食の安心・安全フォーラム・食品中の放射性物質に関する現状と課題～正確な理解のために～	MCA無線 (防災無線) 訓練	●学習講演会「ネガワットー節電のもつ可能性」
食育シンポジウム～日本の未来をつくる「和食」～	第14回京都府協同組合職員体験・交流学校開催	●京都市寄付講座「消費者問題と現代社会」開講
平成26年度食品トレーサビリティシンポジウム～食品の足あと たどれますか?～	大学生協寄付講座 第3回「協同組合論」開講	●「消費者教育推進のつどい」開催
第45回京都消費者大会「ちゃんと食べる」開催	会員生協 NOW@)	
京ブランド食品認定329品目に	京都高齢者生活協同組合くらしコープ	京都府生協連 第14回
2014年8月～	TOPICS	「京都の生協活動を豊かに発展させる協議会」
福知山豪雨災害にたいする京都の生協の活動	●京都府府民生活部との懇談	おもな行事のお知らせ
	●京都府健康福祉部との懇談	
	●第26回近畿地区生協・行政合同会議	



ノルウェー王国大使館 参事官
スノーフリッド・B・エムテルドさん



京都府生活協同組合連合会 会長理事
上掛利博

等である」という考え方が根強く、おそらく、その影響のほうが大きいのではないかと思います。

ノルウェーは300年間、デンマークの統治下にあり、その後の1000年間はスウェー

ーデンと連合関係にありました。王国ではありませんが、貴族はいませんし、社会階級もありません。だから平等になったのだという見方もあります。しかし、スウェーデンは貴族階級がありながら、平

等や民主主義にもとづく国づくりを積極的に進めています。ですから、ノルウェー人の社会的指向についても、何が起因しているのかはよくわかりませんというのが正直なところ

ワーク・ライフ・バランスの前提は、労働時間の短縮

上掛 ノルウェーについて研究してみると、1970年代の約20年間に、働く時間を、男性は1時間減らし、女性は1時間増やし、家事・育児の時間を（家電製品の普及もあるなか）、男性は30分増やして、女性は1時間半減らした結果、余暇と教育の時間を男女ともに1時間ずつ増やすことができたという点が重要でした。

を上げる機会をより多く得られますし、子どもがいる家庭は、放課後の子どもの活動に親と一緒に参加する時間も増えますから、ノルウェーが幸福度・満足度の高い国に挙げられるのかもしれない。ただし、まだ女性のほうが家事労働時間が長いので、そこは今も課題です。

上掛 日本でも最近、ワーク・ライフ・バランスが課題とされるようになってきましたが、

と家事や育児を」と求めるだけでは、ワーク・ライフ・バランスは実現しないと思うのですが……。

ノルウェーでは、その前提に労働時間の短さがあるように思えます。つまり、ディーセント・ワーク（人間らしい働き方）ができるからワーク・ライフ・バランスが実現できるわけですね。ディーセント・ワークをあまり追求せず、長時間働く30代の男性に「もっ

ね。

これを「人間として自由になるための時間」が増えたと捉えるならば、生活時間の男女平等こそは、男女がともに幸せになるための基盤であると考えることができるのではないのでしょうか。

スノーフリッド たしかに自由時間が増えれば、男性であれ、女性であれ、人生の幅

労働組合も、雇用者側の経営者連盟（NHO）も、男女平等とダイバーシティを重要項目として挙げていて、政府も含めた三者が緊密につながり、人間らしい働き方を実現・維持するために努力しています。





ダイバーシティとは、 多様な人びとの違いを受け入れること

上掛 「ダイバーシティ」
(多様性) は、どのように説明すると最も正確に伝わると思われますか。

スノーフリッド ノルウェー語では「たぐさんのものがここにある」という表現をします。つまり、「ノルウェーに住むすべての人」が包括されている、という意味

ですから、平等についても、男女の平等だけでなく、社会的背景、民族、宗教、性的指向、年齢など、ありとあらゆることについて平等を追求します。

たとえばLGBT(レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー)については、以前は同性愛者が

最大の問題として取り上げられていましたが、いまは「性同一性障害(性別違和)も含めて、性的指向はさまざまなので、もっと広く捉えなければいけない」という見方が広がっています。

こうした多様な人びとの違いを包括して定義することが最近の傾向で、かつての「男

女平等オンブッド(オンブズマン)は、「男女」という冠がとれて、いまは「平等・反差別オンブッド」となり、ジェンダー以外の不平等や差別も対象にして市民からの苦情を受け付け、監視・調査・是正勧告をおこなっています。ただ、規則では、同じ仕事につき、かつ受けてきた教育的バックグラウンドが同じであれば、同額の給与をもらう必要があると決められています。

すが、この同一価値労働・同一賃金はまだ完全に達成されてはいません。これも重要な課題となっています。

もうひとつ大事なものは、出産や育児を理由に給与を下げたり、キャリアに支障が出るような扱いを受けてはならないという原則です。出産や子育てによって昇給やキャリア形成が阻害されてはならず、労働者はそれを要求する権利をもっています。

政治・社会問題への関心を育てることが、 高福祉社会を支える力になる

上掛 6年前に京都府立大学でノルウェー大使に講演をしていただいたとき、学生が「ノルウェーでは大学の授業料が無料だと聞いていますが、

そうすると学生は勉強しないのではないか」と質問しましたら、大使は「わたしには3人の子どもがいるが、日本のような高い授業料を払うことはできません。教育は社会のみんなが税金として出合ったお金ですべきなので、ノルウェーでは社会が教育費を出しています。しかし、統計では、日本よりもノルウェー

の大学生のほうが勉強時間が長いのですよ」とおっしゃって、思わず拍手しました(笑)。

スノーフリッド ノルウェーの税率は高いので、手取り収入は減ります。しかし、それは必ず社会に還元されるので、子どもの教育費や老後資金を個人で用意する必要はありません。お金が社会のなかをぐるぐる循環していることが実感できるので、「無料だから怠ける」という発想はあまりないと思いますね。

それから、大金持ちが少なく、平均的な家庭がほとんど

で、子どもは18歳になると親の家を出るのが普通です。そして、大学に進む場合は、返済不要の給付型奨学金と国の教育ローンで自分の家計を支えながら、学びます。

上掛 そうした基盤があつて「18歳の自立」が実現できるのですね。

日本では、おとなも子どもも、社会に目を向ける意識がだんだん弱まっているように思えるので、ノルウェーの学校教育では、子どもたちに積極的に質問したり議論したりするように促して、意識的に

子どもたちを「社会の主人公」として育てているということが、非常に印象的でした。スノーフリッド もし人びとが社会問題に興味をもたなかったら、社会問題に無知であつたならば、彼らは政治に興味をもたず、選挙にも行かないかもしれません。そうすると民主主義は衰退してしまいます。

政治は、どこか遠い世界のことではなく、わたしたちが住む社会や共同体のことを扱うものであり、わたしたちの生活に深く関わるものですから、小学生の段階から世界人権宣言や国連子どもの権利条約などについて、その発達レ

ベルに応じて教えますし、異なる立場や意見について考えさせるために活発な討論を促すこともします。ノルウエー

にとつて「人」は大切な財産ですから、社会問題に主体的に関わる人を育てることは重要な課題なのです。

マスメディアの役割——政府・権力の監視、社会問題の提起

上掛 ノルウエーのマスメディアも、人権や民主主義について人びとの議論を促すような報道を積極的に展開している、日本の報道の現状とはずいぶん違うようです。

スノーフリッド メディアは、政府や権力を監視する役割をずっと果たしています。

同時に、社会的な問題を提起するという重要な役割も担っていますので、最近ではインターネット上でのいじめ、家庭内暴力、児童虐待等についての議論がだんだん活発になっていきます。

上掛 ノルウエーの人は、世界でいちばん新聞を読む国

各政党は、青年部をもち、若者に門戸を開いているので、政治家を志望する人は10代でも政治活動に参加できるよう

民といわれていますが、自分が住んでいる町で発行されている新聞、県レベルの新聞、全国紙などを二紙から三紙は読んでいますね。

スノーフリッド たしかに地元紙も多いですし、新聞を読む習慣は古くからあります。ノルウエー人は、出身地にこだわりをもっているのです、地元の新聞を読みたいと思う人が多いのです。わたしの妹も、デ

ンマークに住んでいますが、わざわざ故郷の新聞を取り寄せて読んで、いつも情報を収集しています。でも、若い世代は、インターネット上で新聞を読む人が多いようなので、紙媒体の新聞を読む率は下がっているかもしれません。

地方自治体を大切に

上掛 わたしのノルウエーの友人は、最も身近に感じるのは自分の住むコミュニティー（基礎自治体）で、次が県、最後に国だと話しています。

が離れているという地勢的な理由から、自分の住むコミュニティーへの思いが強いのかもしれませんね。方言も、日本と同じようにありますが、誰もそれを矯正して、標準語で話そうとはしません。みんな、ずっと方言で話しています（笑）。

スノーフリッド ノルウエーは、人口密度が低く、隣町

とくに戦後、ノルウエーが力を入れてきたのは、人びとが都市に集住せず、地域に分

散して住むようにすること、地方の民主主義の確立です。ですから、地方自治体は予算

に關する裁量権をもっていますし、地方のレベルで実現・実践される政策もたいへん多いと思います。

地方の政治は、学校の運営や保健・福祉など、日常生活と関わりの深い課題を扱うので、市民の関心が高く、政治家も人びとの代表としてそこに関わっていく、という構図ができていくような気がします。

障がいや病気をもののは、普通のこと

上掛 ノルウエー政府認定の60章「明石書店」。

音楽療法士の井上勢津さんが、ノルウエーの音楽療法は「コミュニティ音楽療法」が中心で、それまで地域の人たちは障がいのある人を「仲間」だとは思っていませんでした。一緒に歌ったり演奏したりするうちに「音楽の仲間」として受け入れるようになってきました（大島・岡本編「ノルウエーを知るため





「ともに生きる」社会に向けて、 他国との対話と学びを大切に

上掛 「ともに生きる」という点で、日本では協同組合が環境・平和・食の安全・福祉などの運動に取り組んできました。ノルウェーの社会で協同組合はどのような位置にありますか。

な日本との違いを感じます。スノーフリッド 数十年前まで、障がいのある子どもは、社会から少し離れて、特別学級・学校に通っていましたが、いまは「それは差別につながらない。社会的に包摂することが重要だ」という考え方も、さらに、普通の学校に通い、さら

に必要な支援があればそれを用意するという方法に変わりました。

「違うもの」が「普通のもの」と捉えられるようになってたわけです。

その良い例が精神保健に関わる問題で、あるとき、元首相が現職中に「わたしが先日

休暇を取ったのは精神的な問題があったからだ」と言いま

した。首相のような地位にある人が、はつきりとオープンにしたことはとても画期的で、それ以来、精神的な問題も「特殊なこと」ではなく「普通のこと」と考えられるよう

になり、社会的に包摂する方向になりました。

意見を聴いたうえで立案します。つねにそういう過程を経て、政策的な意思決定がおこなわれていくわけです。

上掛 最後に、京都のみなさんへのメッセージをお願いします。

スノーフリッド 京都に来るたび、「ああ、いいまちだなあ」と思います(笑)。また、みなさんがノルウェーに関心をもってくださいることを光栄に思います。日本から遠く離れた小さな国に興味をもってくださいるのは、とてもうれしいことです。

わたしが大事だと思うのは、ある国でいいと思うことを単にコピーして別の国に持つてきても、うまくいくとは限らないので、国であれば、個人であれば、それぞれのやり方を自分で見つけなければいけない

向になりました。

また、前首相も、大臣だったときに父親の育児休暇を取っています。そうした行動が国民の意識に与える影響は大きいので、やはりロールモデル^(*)は大切ですね。

^(*)ロールモデル

役割を担うモデル、模範・見本

ということですが。

しかし、相手を知ることが自分を知ることにつながるの、それぞれの国の経験を分かち合っ、お互いから学ぶことは大切です。国は、孤立してはやっていけないので、いろいろな国と対話をして、お互いの経験を分かち合い、そこから学びあうことが大切だと思えます。

上掛 ノルウェーについて知れば知るほど、日本で当たり前と思っていることが他の国ではそうではないということがはつきり見えてきます。

これからも、男女平等や福祉の先進国であるノルウェーの経験から学びながら、日本の福祉社会について京都の地で考えていきたいと思えます。ありがとうございます。

(写真撮影：有田知行)

プロフィール：スノーフリッド・B・エムテルド (Snøfrid B. Emterud)

オスロ大学社会人類学修士課程修了。

2003年～06年にウクライナ、2006年～09年にベトナムの各ノルウェー王国大使館に勤務し、外交、内政のほか、ベトナムへの開発援助を担当。その後、オスロのノルウェー外務省安全保障政策局で、軍縮・核不拡散問題のアドバイザー。

2012年3月東京のノルウェー王国大使館に参事官として赴任。

4歳と9歳の子どもの母。



食の安心・安全フォーラム・食品中の放射性物質に関する現状と課題〜正確な理解のために〜

2014年8月25日(月)、ウイニングス京都で開催。

消費者庁が実施している食品と放射性物質にかんするリスク・コミュニケーション等の事業を活用した学習講演会。食品中の放射性物質の健康影響や検査状況等について正確な理解を深め、ひいては国産農畜水産物の風評被害を防ぐことを目的に開催。

主催は消費者庁、内閣府、厚生労働省、農林水産省、京都府、京都市。京都生協、京都府生協連が企画運営に協力しました。

福島県立医科大学災害医療総合学習センター・熊谷敦史副センター長が「放射線の健康影響〜食品の安全性について考える〜」と題して基調講演をおこないました。

京都生協品質保証部・佐々木裕司マネージャーが「食品中



福島県立医科大学 災害医療総合学習センター・熊谷敦史副センター長

の放射性物質問題に対する生協の取組み」、京都府食の安心・安全推進課・津田義郎副課長が「京都における食品中の放射性物質検査状況」、京都医療科学大学・大野和子教授から「漫画で伝える放射線影響」について話題提供・資料紹介がありました。後半では、参加者からの声をもとにパネルディスカッションがおこなわれました。

食育シンポジウム 日本未来をつくる、和食

2014年8月2日(土)、京都リサーチパーク4号館バズホールで開催されました。主催はきょうと食育ネットワーク等。

京都府・山田啓二知事が開会あいさつをされました。料理研究家・土井善晴氏が「しあわせの極意・家庭料理の作り方〜和食文化を担うということ〜」をテーマに、基調講演をされました。家庭での豊かな経験が食の感性を育て、幸せになる力を育てるといふことなどを、楽しいトークで話されました。次に、「和食文化を受け継ぐこと、生かすこと」をテーマに、パネルディスカッションがおこなわれました。きょうと食育ネットワークには京都府生協連も加入しています。

平成26年度食品トレーサビリティシンポジウム〜食品の足あと たどれますか?〜



京都大学大学院農学研究科・新山陽子教授

2014年9月30日(火)、キャンパスプラザ京都で開催されました。

主催は農林水産省近畿農政局で、食品トレーサビリティに取り組み食品事業者が増えることを目的に開催されました。

近畿農政局消費・安全部・石場裕部長より開会あいさつのもと、「なぜ食品トレーサビリティは必要か?その原理と役割」をテーマに、京都大学大学院農学研究科・新山陽子教授が基調講演。

農林水産省消費・安全局表示・規格課・神田課長補佐が「農林水産省における食品トレーサビリティの推進に向けた取組みについて」情報提供。兵庫県健康福祉部健康局生活衛生課・中塚勇二氏、京都生協・佐々木裕司氏、ヤマサ蒲鉾株式会社・黒田信行氏、堺共同漬物株式会社・瀬田孝

恒氏がそれぞれ取組事例を発表しました。京都生協からは「きょうと方式鶏卵トレーサビリティシステム」を導入し、生産者と消費者の日常的な信頼関係が築けていることなどが紹介されました。

第45回京都消費者大会 「ちゃんと食べる」開催

2014年10月25日(土)、ハートピア京都において開催されました。「京都府の食の安心・安全の取組み」について京都府南丹広域振興局農林商工部・川崎淳司部長より報告がありました。

つづいて、こどもの食事(小学校栄養教諭)、路上弁当販売監視(京都市保健医療課)、地産地消の取組み(京都府地球温暖化防止活動推進センター)、高齢者向け配食サービス(京都生協くらしの助け合いの会)、食品ロスの状況(農林水産省近畿農政局)について実践事例の報告がありました。

八百屋「ボン太青果店」を経営している、土肥ボンタさん(よしもとクリエイティブ

エイジェンシー)によるトークショーもあり、和やかな雰囲気の大会となりました。主催は当会が加盟しているNPO法人コンシューマーズ京都。京都府、京都市が後援。

京ブランド食品認定 326品目

2014年11月18日(火)、京都ブランドホテルで、京ブランド食品認定・品質保証委員会第21回認定審査会が開かれました。11月現在の認定食品は、102企業、329商品、691アイテムとなっています。

京ブランド食品「京都吟味百撰」の認定は、(一社)京都府食品産業協会が推進する事業で2004年からはじまったもの。

京都府生協連・日岡豊子理事が認定・品質保証委員、坂本茂理事が同ワークキング委員に選出されています。



京都府生協連・日岡豊子理事が審査(中央)

2014年8月

福知山豪雨災害にたいする京都の生協の活動

災害ボランティアが現地へ続々と



(写真提供は京都府災害ボランティアセンター)

2014年8月16日(土)から17日(日)にかけて降り続いた大雨は、福知山市街地の浸水など、大きな被害をもたらしました。京都府災害対策本部の調べによると、死者2人、負傷者1人、全壊・半壊・床上・下浸水などの被害をうけた住宅3192戸。農林水産関係の被害約44億円にのびりました(10月6日現在)。

災害対策本部を設置



京都府生協連は、専務理事を対策本部長とする災害対策本部を立ち上げ、被災地支援の取組みを開始しました。会員生協・近畿地区生協府

県連・日本生協連関西地連に「対策本部ニュース」を発行し、災害ボランティア活動等についての情報の提供をするとともに、京都府災害ボランティアセンター構成団体として活動支援をおこないました。

ボランティア活動

災害ボランティア活動には、8月18日(月)から31日(日)の期間で、のべ4899人が参加。近隣地域の生協からも申込みがありました。

ボランティアバスの電話受付には京都府庁生協、京都生協、京都府生協連はじめ、大阪府生協連からも要請に応えていただきました。のべ8人が参加しました。

京都駅からのボランティアバス運行にさいしては、運行当日、大学生協京都事業連合、京都生協、京都府生協連の役員が受付・誘導等の送迎やボランティア活動用支援品の積み込みをおこないました。

会員生協の活動

京都生協・全京都勤労者共済生協では、共済加入者への



ボランティアバス電話受付

被災見舞いをかねた電話かけ・訪問調査活動をおこないました。

京都生協では、組合員から集めた義援金920,800円を社会福祉法人京都府共同募金会へ、全労済京都府本部は「災害義援金運用内規」にもとづき30万円を福知山市に寄託しました。



ボランティア活動用支援品を積み込み



ボランティア参加者の誘導案内



ボランティアバスの受付

ボランティア要員の登録呼びかけ
災害発生時に、京都府災害ボランティアセンターなどからの要請に応え、災害時のボランティア活動がより迅速に対応できるように、ボランティア要員の事前登録の仕組みを確立し、会員生協の役職員に事前登録の呼びかけをおこないました。



無事を祈って出発を見送り



受付を済ませ、いざ現地へ出発



会員生協役職員も受け応援に



京都府府民生活部防災・原子力安全課・船越理志副課長

防災学習会開催
2014年7月22日(火)、
「想定される京都の災害と防災・減災を考える」をテーマに、会員生協の防災担当者を対象とした学習会を開催しました。
京都府防災・原子力安全課・船越理志副課長から「京都の災害想定シナリオと防災・減災の備えについて」と題して、過去に発生した京都と近隣地域の災害事例、京都府内の活断層の特徴と想定されている被害について、講演していただきました。
また京都生協CSR推進室・酒向美也子マネジャーより、防災・減災の取組み事例や、事業継続計画(BCP)の作成に至る経過と教訓について報告をいただきました。
午後から、日本生協連より

や救援物資の輸送、避難所開設などの訓練をおこなうことで、府民の防災意識の向上を図り、被害の減少につなげるのが目的。笠置町、和束町、精華町、南山城村でも訓練がおこなわれました。
京都府生協連は7時45分に京都生協山城支部で災害対策本部を立ち上げ、京都府から要請のあった救援物資等をトラックに積み込んで、訓練会

京都府総合防災訓練
2014年8月31日(日)、
木津川市中央体育館及び周辺グラウンドを主会場に開催されました。奈良盆地東縁断層帯による直下型地震が発生したことを想定して、住民避難

講師を迎え、事業継続マネジメント(BCM)の学習と、事業継続計画(BCP)作成のためのワークショップをおこないました。



日本生協連法務・危機管理室・土居栄三氏

MCA無線(防災無線)訓練
2014年7月29日(火)、
震度6強の地震が発生したとの想定で、日本生協連関西地連、京都府生協連、京都生協、大学生協京滋・奈良ブロックのあいだで、通信訓練をおこないました。
MCA無線が発災時に正常に稼働できるようにしているか(送受信の状態・器具の不具合の有無・電波状況・設置場所など)について検証しました。



倒壊ビルからの救出・救助訓練

場にむかいました。
京都府生協連は、京都府と「災害時における応急対策物資供給等に関する協定書」(1997年)を締結しており、JA京都中央会とともに訓練に参加。生協から28人、JAグループから8人のボランティアが参加しました。

第14回京都市協同組合職員体験・交流学校開催

JA・森連・漁協・生協

2014年9月10日(水)

11日(木)、京都生協南部物流センターなどを会場に開催され、各協同組合から役員27人が参加しました。

主催は、京都府協同組合連絡協議会(京都府農業協同組合中央会、京都府漁業協同組合、京都府森林組合連合会、京都府生活協同組合連合会で構成)。

協同組合で働く職員の教育と育成を目的として、京都府の協同組合の連携、課題を学び、認識を深め合う機会として2000年度より毎年開催されています。

生協の宅配事業をテーマに開催

2014年は京都府生活協同組合連合会が当番となり、「生協の宅配事業について学



京都府生協連・横山治生専務理事があいさつ

ぶ」をテーマに開催しました。一日目は、京都府生協連・横山治生専務理事が歓迎のあいさつをおこないました。京都生協機関組織運営系統・高取淳統括マネジャーが「京都生協の概況」、宅配事業企画部・田中薫マネジャーが「宅配事業の概況と仕組み」、組合員コールセンター・石田正三マネジャーが「組合員コールセンターの概況と役割」について講義をおこないました。つづいて京都生協南部物



田中薫マネジャー



高取淳統括マネジャー



石田正三マネジャー



(株)ハートコープきょうと 山田共夫専務取締役(右)

流センターに会場移動し、障がい者雇用を広げていくことを目的として設立された、京都生協特例子会社(株)ハートコープきょうとの施設と障がい者による作業を、山田共夫専務取締役の案内で見学。(株)コープネットワークサービスロジステイクス事業部・木田勝也マネジャー、同・我喜屋完物流担当の案内で南部物流センターの施設を見学しました。

生協の宅配トラックに添乗体験

二日目の午前中は、京都生協の城南支部、洛西支部に協力をいただき、共同購入の宅



配達添乗前の諸注意



商品を積んだ宅配便トラック

配トラックに添乗、配達業務を体験しました。二日間の講義・体験・交流を通して、生協の宅配事業の仕組み、物流センターのはたしている役割などについて学びました。参加者からは、「他の協同組合の方々とお話をさせていただいて協同組合としてのあり方など、たくさんさんの交流がもって良かった」「私の業務では組合員さんと接することがあまりなく、協同組合であると感じる場が少ないが、今回はそれを感じることができた」「配達は組合員との距離が最も近くなる場であり、協同組合としての意義を感じた」「配達してただ品物を渡すだけでなく、色々なコミュニケーションの組織となっていることを添乗して実感した」など、たくさんさんの感想がよせられました。

協同組合の意義を感じた体験・交流学校



京都生協の宅配便トラックが次々と出発

ポストIYC(国際協同組合年)記念事業

大学生協寄付講座

第3回「協同組合論」開講



京都府生協連前会長理事の小林智子顧問

滋・奈良ブロックによる寄付によって実現したものです。講義は、京都の生協はじめ、農業協同組合、漁業協同組合、森林組合のほか医療生協、労働金庫、信用組合、ワーカーズコープなどから講師を迎え、各種の協同組合の活動や事業内容を紹介していただきました。

小林智子さん(京都府生協連顧問)が第5講を担当



岡田美紀さん(左)



大学生協連では2012年度の講義録を書籍として出版しました。発行は、全国大学生生活協同組合連合会、発売は連合出版、税抜き本体価格は1000円。

「協同組合論」の出版

第1講「協同組合とは何か」

名和又介(同志社大学名誉教授・大学生協京滋・奈良ブロック会長)

第2講「協同組合の歴史」

杉本貴志(関西大学教授)

第3講「賀川豊彦と協同組合」

賀川督明(賀川記念館館長)

第4講「協同金融の社会的な役割と課題」

中須雅治(近畿労働金庫地域共生推進部次長)

第5講「女性の生き方と生協」

私の個人史から見た生協の過去・現在・未来
小林智子(京都府生活協同組合連合会前会長理事・顧問)

第6講「大学生生活と大学生協」

吉岡充代子(全国大学生協連学生委員長)

第7講「JA(農協)の存在意義について」

牧克昌(京都府農業協同組合中央会専務理事)

第8講「漁業とはどんな産業か」

花崎元裕(京都府漁業協同組合組織部指

導課係長)

第9講「森林と人との共生」

青合幹夫(京都府森林組合連合会・代表理事会長)

第10講「中世の大学と協同」

川添信介(京都大学教授・京都大学生協理事)

第11講「コミュニケーション・バンクのめざす経営姿勢」

小倉純(京都信用金庫理事・滋賀本部長)

第12講「まちづくり」として展開する地域包括ケア事業」

神山充(南医療生活協同組合総務部)

第13講「酪農家の協同組合」

鎌谷一也(鳥取県畜産農業協同組合代表理事組合長)

第14講「地域に役立つ仕事おこしの協同組合」

一カーズコープの紹介
岡安喜三郎(「一社」協同総合研究所理事)

第15講「協同組合論を締めくくる」

麻生純(同志社大学商学部准教授)・名和又介(同志社大学名誉教授・大学生協京滋・奈良ブロック会長)

※役職名は2014年8月現在

国際協同組合年を記念して企画された大学生協寄付講座「協同組合論」が2014年もキャンパスプラザ京都において8月26日(火)〜30日(土)に開講され、学生、市民が受講しました。

同志社大学商学部の協力で、コンソーシアム京都の大学間単位互換授業として、京都府内の大学生や一般市民にも公開されました。

本講座は全国大学生協連京

京都高齢者生活協同組合くらしコープ

時代の先端を協同と連帯で…
魅力ある生協活動

2014年2月4日に設立、8月に新しく京都府生協連に加入された「京都高齢者生活協同組合くらしコープ」。岡本康理事長と長誠一郎専務理事に、せいきよう会館において、お話をうかがいました。

(聞き手：京都府生協連専務理事 横山治生)

任意団体から生協を設立

横山 生協の設立までの経過についてお聞かせください。

岡本 最初は任意団体として2002年に高齢者協同組合・くらしコープが発足しました。設立前には準備会のよびかけで井上ひさしさんの講演会を京都アスニーで開催し、会館はじまって以来のたくさんの方の参加があり、盛り



京都高齢者生活協同組合くらしコープ・
岡本康理事長

上がりました。当初は現常務理事の水口さん達が中心となり、京都府内産のお茶やお米などの供給事業をしていました。他の生協が産直事業をやっていたので、同じようなことをやっても…ということ、福祉事業を中心に取組むことになりました。

横山 やはり、集まってきたメンバーは高齢の方が中心だったのででしょうか。

岡本 そうです。文化的な要求とか、高齢者としての生きがいを求め、くらしを楽しみたい活動を探りで創りだそうではないかという希望をもっておられました。

長 大学の先生方や文化人と呼ばれる方がたくさん参加されていたようです。その後、2002年8月には、介護事業をする企業組合（2年後、有限会社くらしコープに改称）を開設、2004年7月に仕事おこしと生活支援事業をおこなう、NPO法人くらしコープを設立、2つの事業をはじめました。

横山 長専務はいつから関わるようになったのですか。

長 以前の仕事を退職してから、知り合いに誘われて生活支援事業のワーカーとして参加するようになったのがきっかけでした。

横山 どんなお仕事をワーカーとしてされていたのですか。

長 最初の仕事は、お医者さん宅の屋上にあつた温室を

解体する手伝いをしたのを覚えています。その後、事務所の仕事や、不要品処理、トイレのつまりなど現場の仕事をしました。組織の運営などについても助言をしているうちに事務局長をやることになりました。

その後、介護事業をしていて有限会社が経営危機に陥り、当時、高齢者協同組合の代表世話人だった岡本康さんに相談したところ、「あなたが社長になって欲しい」といわれ、NPO法人くらしコープの事務局長と有限会社くらしコープの社長の、2つの組織の運営に、深くかかわるようになりました。

横山 高齢者協同組合・くらしコープの中にできた2つの事業が、生協設立へつながるのですか。

長 そうです。組合員活動をおこなう高齢者協同組合と事業をおこなう2つの法人が別々に運営されており、このことが様々な取組みの妨げになっていない。もう一度、高齢者協同組合設立の原点に戻って組織の再編をおこなうことが生協を設立するきっかけになりました。

横山 いろいろとご苦労があつたように思います。



横山治生専務理事

長 くらしコープという名称は各組織名の末尾についていますが3つの組織に分かれて事業をしていたため、特に介護事業をしている有限会社くらしコープは、一般の介護事業所という見方になっていました。協同組合という意識がほとんどなく、職員の学習会も「協同組合とは」から始めなければなりませんでした。

生協になってお互いの事業が
支え合うように

横山 生協として様々な活動をしておられるようですが…

岡本 設立当初から文化的な要求に沿った多面的な活動を中心におこなっており、映画会、読書会、書道や絵手紙教室など組合員自身による自主的なサークル活動が旺盛です。しかし、それだけでは同好者の集まりで、広がりがありませぬ。生活要求に沿った介護の仕事が定着し、根を張



京都高齢者生協くらしコープ・
長誠一郎専務理事

ってきたということ。ほかに庭の剪定や引越しの手伝いなど、いわゆるワーカーズの活動もおこなっています。

横山 ワーカーズに登録している方は何人おられるのですか。

長 80人ほどです。そのうち、昨年度1回でも作業にかかわった方は50数人でしょうか。

横山 生協になってから何か変化はありますか。

長 生協になってから活動の輪が広がっていると思います。以前は高齢者協同組合・くらしコープとNPO法人くらしコープ、介護事業者としての有限会社くらしコープの3つがそれぞれに活動をおこなっていました。生協として一本になることでお互いが支

え合うようになり、「くらしの助け合いを広げ、安心と輝きの高齢社会をつくろう」というスローガンのもと、高齢者の要望をすべて取り上げる組織をめざし、いろんなことに取り組むようになりました。

横山 くらしの便利屋さんと呼んでいる生活支援事業ではどのようなニーズが多いのでしょうか。

長 介護保険が改定され、訪問介護が1単位60分から45分になってから、掃除の依頼が増えました。45分の時間内では手が回らなくなっているのでしょうか。居住スペース以外の掃除も含めて依頼が増えてきました。他に庭の樹木の剪定など、高齢者の仕事おこしとあわせて困っている人たちの「くらしの便利屋」と

しての取り組みをおこなっています。私たちのできない仕事は専門の業者さんを紹介するなど困っている人を放置しない姿勢を大切にしています。

横山 介護事業の利用状況はどうでしょうか。

長 組合員を増やすことが事業につながります。地域で組合員が増えれば将来は介護にもつながってくる。介護が必要でない間はワーカーとして参加したり、サークルや文化活動に参加したり、いろんな参加の仕方がある。参加して楽しめる生協活動をめざしたいです。

横山 組合員さんは生協の事業の担い手であり、利用者でもあるのですか。

長 そうです。3つのスローガンにあるように、サークル活動やワーカーズで「元気な高齢者」も「寝たきり」に介護の分野では「寝たきり」にならない、しない、そして「一人ぼっちの高齢者をなくそう」ということです。

横山 急速に進む高齢化社会のなかで、ある意味では時代の先端でお仕事をされているのですか。

横山 急速に進む高齢化社会のなかで、ある意味では時代の先端でお仕事をされているのですか。

会員生協同士で力を合わせる ことが大事

岡本 最近では、共同募

つくってほしいという声も出てきています。お墓の面倒を見る子どもがいらないなど、いろんな動機があるようです。共同で墓地を借り、供養塔を作って永代供養する、生協の墓地でしょうか。死後も寄り添っていききたいという気持ちもあるようです。また京都には外国人が多く、留学生や外国人教員もたくさんいらっしゃいます。そういう人たちにどのようなサポートができるかも課題かと思っています。

横山 大学生協も留学生のための食事やサポートなどをしています。協力して、取り組めるといいですね。

長 今後のことを考えると、いかに生協同士が提携してやっていくかだと思います。それぞれが得意な分野を活かし、力を合わせることが大事になっていくと思います。この間、京都府生協連の会員生協と介護福祉関係で学習会をしたり、京都府との懇談の場に出席しました。同じテーマで協力できることもたくさんあると思います。

高齢者の知的生産の継続が課題

横山 高齢者生協というとお年寄りの集まりで細々と地道にやっているというイメージ

ジがありました。時代の先端を協同と連帯で、魅力ある活動をしていってほしいですね。

岡本 生協を定年退職した人が時間に余裕ができて自宅にいただけではもったいない。ぜひ高齢者生協に参加してほしいです。大学の先生も退職して家に引きこもっている方も多いため、その知識を継承し、活用していく事など、高齢者が知的生産を継続できるようにすることを考えてほしいですね。

横山 本日は、どうもありがとうございました。



**京都高齢者生活協同組合
くらしコープ**

代表者/理事長: 岡本 康
専務理事: 長 誠一郎

所在地/京都市北区紫野東野町1番地5
TEL.075-432-3636

組合員数/522人
設立年月日/2014年2月4日

京都府府民生活部との懇談



京都府府民生活部・小林裕明部長

2014年9月8日(月)、京都府公館第1会議室で開催しました。

京都府からは府民生活部・小林裕明部長、奥村功消費生活安全センター長、竹田厚子副センター長、広瀬久美子副課長、園田省三副課長、佐竹由行副主査が出席しました。

京都府生協連からは上掛利博会長理事、中森一朗副会長理事(京都大学生協専務理事)、横山治生専務理事、高取淳生協活動推進専門委員(京都生協機関組織運営系統統括マネジャー)のほか、事務局が出席しました。

京都府から「京都府消費生活行政の重点施策」や「京都府消費者教育推進計画」について報告があり、消費者被害の特徴的な事項として京都府内で「特殊詐欺」が多発していることがあ

げられました。生協からは2014年度活動重点課題について報告し、京都生協からは高齢者への見守り活動や夕食宅配サービス

の状況について、大学生協からは京都府からの委託を受けて事業展開した、大学生が主体の消費者教育ヤングリーダーの育成について報告がありました。お互いの報告を受けて、行政と生協の提携の可能性について意見交換をおこないました。

京都府健康福祉部との懇談

2014年10月17日(金)、介護保険制度の改定にともなう新たな地域支援事業について懇談しました。

京都府からは、今回の制度改定のポイントと府内各市町村の



新しい地域支援事業について懇談

準備状況、生協も含め期待されている生活支援事業について説明がありました。

生協から、福祉事業やくらしの助け合いの会、健康教室、居場所づくりなどの活動を紹介しました。

懇談会には健康福祉部介護・地域福祉課・田村智課長、高齢者支援課・古川元史副課長が、京都府生協連からは、京都生協・高取淳機関組織運営系統統括マネジャー、乙訓医療生協・小野留美子専務理事、やましろ健康医療生協・堂本吉次専務理事、京都高齢者生協くらしコープ・長誠一郎専務理事が出席。上掛利博会長理事、横山治生専務理事、ほか事務局が参加しました。

第26回近畿地区生協・行政合同会議

2014年11月21日(金)、福井県商工会議所・コンベンションホールで、「地域・行政とのネットワークでくらしの安心づくり」をテーマに開催。

福井県生協連・野尻郁智副会長理事が司会を担当、近畿地区生協府県連協議会・本田英一代表(兵庫県生協連会長理事)、福井県安全環境部・櫻本宏部長が、開会のあいさつをのべました。厚生労働省近畿厚生局健康福祉部・野本宏部長から、①組合運営にかかわる各種規約・規則



京都府府民生活部生活安全センター・竹田厚子副センター長が報告

等の整備改善、②理事会運営における理事の出席状況の改善などについて、報告がありました。

日本生協連渉外広報本部渉外部・松本圭司部長から全国生協の事業概況、生協の事業を通じた東日本大震災復興にむけての支援などについて紹介がありました。

日本弁護士連合会消費者問題対策委員会委員・島田宏弁護士から「みんなで作くり、動かす、消費者市民社会」をテーマに特別報告がありました。京都府府民生活部消費生活安全センター・竹田厚子副センター長から京都府における消費者教育の取組みについて報告があり、大学生協阪神事業連合、福井県安全環境部環境社会推進課、NPO法人消費者支援機構関西からも活動報告があり、意見交換しました。

京都の生協理事長懇談会

2014年9月16日(火)、コープ・イン・京都で開催しました。横山治生専務理事が司会進行し、上掛利博会長理事から開会のあいさつがありました。

京都学園大学法学部・木藤伸一朗教授から、憲法についてご講演をいただきました。木藤教授は、現在の改憲の動向や、国連の基本的な考え方を説明されました。集団的自衛権行使の実例をあげ、今後の動きについて、警鐘を鳴らされました。その後、各会員生協から2014年度の活動課題等について報告があり、意見交換をおこないました。

14会員生協から理事長・専務理事・常務理事21人が出席しました。

2014年度会員生協理事長懇談会



京都学園大学法学部・木藤伸一朗教授(右)

京都の生協活動功労者表彰式

2014年11月4日(火)、

せいきよう会館で開催しました。京都府生協連の表彰制度にもとづき毎年おこなっているもので、表彰の対象となった方は、2013年8月1日から2014年7月31日までのあいだに退任した役員のうち、①役員在任期間が2期以上または4年以上あった方、②特別に功労があったと認められる方、です。

2014年は各会員生協から8人が推薦され、表彰されました。上掛利博会長理事が表彰状を贈りました。出席された功労者、清水武彦・京都医療生協前常任理事からごあいさつをいただきました。表彰式には、該当する生協から役員が同席しました。



京都医療生協前常任理事・清水武彦さん(中央)を囲んで集合写真

学習講演会「ネガワットー節電のもつ可能性」



関西学院大学総合政策学部・朴勝俊教授

2014年10月21日(火)、せいきよう会館で「ネガワットー(※)ー節電のもつ可能性」と題して関西学院大学総合政策学部・朴勝俊(バク スンジュン)教授を講師に迎え、学習講演会を開催しました。

福島第一原発の事故による放射能汚染によって国民の中に、節電への関心が高まり、脱原発を望む声が高まっています。しかし、火力発電による燃料の輸入で国富が流出、このままでは日本経済が立ちいかなくなるような意見が根強くあります。朴教授は、再生可能エネルギーと節電所(※)によって、日本経済が十分成り立つことを統計手法にもとづいて説明されました。

講演の後に、生協生活クラブ京都エル・コープ、京都生協、大学生協京都事業連合、京都府生協連から、再生可能エネルギーの普及と省エネの取組みが報告されました。

※ネガワットー・節電所
節電した電力は他の家庭や事業所で使用され、新たな電気を創りだすことに匹敵し、英語ではネガワットと呼んでいます。朴教授は、これをわかりやすく「節電所」と命名しました。

京都市寄付講座 「消費者問題と現代社会」開講

京都市による寄付講座が同志社大学に設置され、2014年9月16日(火)〜20日(土)に、単位互換授業としてキャンパスプラザ京都で開催しました。

授業の内容は消費者問題にかんする政策、被害の実態、関連法規、企業による対応、消費者行政など。

15コマのうち、京都府生協連の構成団体である大学生協が3コマの講義を担当しました。

講義のテーマは「大学生の食の自立」、「学生生活のリスク」について。食生活栄養相談会や学生生活実態調査、共済の給付事例にもとづいて、具体的な食生活の実態や事故事例を紹介し、受講者同士で消費者市民として今後どう行動すべきかなど話し合いました。

京都府生協連・横山治生専務理事がコーディネーターをつとめました。受講者は50人。



大学生協京阪神北陸統合事業部フードサービス事業部・飯田朋子管理栄養士

「消費者教育推進のつどい」開催

2014年9月6日(土)、ハートピア京都で開催。

京都府、京都市、京都くらしの安心・安全ネットワークが主催。NPO法人コンシューマーズ京都が企画・運営。

午前の部の開会にあたり、京都市文化市民局市民生活部消費生活総合センター・峯泰勝センター長より「京都市は消費者教育推進計画策定中であり、本日の会合の成果を反映させたい」とのあいさつがあり、各分野で消費者教育を担う団体からの事例発表がありました。

午後のシンポジウム開催にあたっては京都府民生活部消費生活安全センター・奥村功センター長より「京都らしさを盛り込んだ消費者教育の計画が策定できた。はじめましょう京都から消費者教育を」をスローガンに取り組んでいきたい」とのあいさつがありました。消費者庁前長官・阿南久さんと消費者教育センター・柿野成美主任研究員による基調講演のあと、NPO法人コンシューマーズ京都・原強理事長のコーディネイトによるシンポジウムがおこなわれ、京都生協・渡邊明子理事長(京都府生協連・理事)がパネラーとして参加しました。



消費者教育の課題を意見交換

京都府生協連第14回 「京都の生協活動を豊かに発展させる協議会」

～組織と事業のイノベーションによる
協同組合のあらたな価値の発見・創造の場として～

テーマ 生協の共済活動を考える

2014年10月14日(火)、生協の共済活動をテーマに開催、役員21人が参加しました。

上掛利博会長理事が開会のあいさつをおこない、鯉江賢光副会長理事がコーディネーターをつとめました。



京都府生協連・鯉江賢光副会長理事

事故や病気、災害など、困ったときは、おたがいさまの精神で活動しているのが生協の共済活動です。今回は全京都勤労者共済生協、京都生協、大学生協から共済活動について紹介があり、これからの課題を考えました。



全京都勤労者共済生協 金丸直史さん

全京都勤労者共済生協(全労済京都府本部)からは労働組合や協力団体と連携した活動が紹介されました。年功序

列や終身雇用、医療保険や年金制度によって、安心が「約束」されていた環境が変化の中で、勤労者の賃金改善と可処分所得の拡大をめざした生活保障設計運動が取り組まれています。

全労済が認定する生活保障プランナーの育成に力を入れ、労働組合の自主福祉活動としてライフプラン設計提案に取り組んでいることなどが紹介されました。



ポータルサジェーマネージャー 溝内啓介さん

京都生協からは組合員と家族の生活設計を提案するライフプランアドバイザーの活動や、体にハンディがあるために保険に加入できないお子さんをもつ組合員さんの悩みをとりあげ、加入条件が緩やかな保障コースが誕生したことなどの報告がありました。

また、京都府北部の豪雨災害に際して、すみやかなお見舞金給付の手続きをおこなうために加入者のお宅を訪問する活動などが紹介されました。



龍谷大学法学部3年生 原田卓也さん

大学生協の共済は扶養者が万が一不幸にみまわれた際にも卒業までの保障があるなど、学業の継続を重視した保障制度となっていることが特徴です。また日常的な啓発活動が活発に取り組まれており、学生に多い自転車事故の予防提案や食生活栄養相談会、自炊力を高める料理教室など、学生が中心に活動しています。



滋大生協共済担当 山原縁さん

大学生は卒業時には共済契約が満了になります。社会人として地域や職場で共済加入を継続できないかなど、共済活動が交流されるとともに、お互いが連携することによって、共済活動の発展の可能性が感じられる協議会となりました。

おもな行事のお知らせ

2015年新春交歓会

日時:2015年1月10日(土)

12:15~13:30

会場:コープ・イン・京都2階

京都府生協連と各会員生協の相互連絡通信訓練

日時:2015年1月19日(月)

7:00~10:00

第15回京都の生協活動を豊かに発展させる協議会(KSK)

日時:2015年1月20日(火)

13:30~16:30

会場:せいきょう会館4階 第1会議室

テーマ:「ICA」協同組合の10年に向けた「ブループリント」を学び、考える

2014年度きょうと食の安心安全フォーラム

日時:2015年1月28日(水)

13:30~16:30

会場:京都府庁 福利厚生センター3階

近畿ブロック「地方消費者グループ・フォーラムin滋賀」

日時:2015年2月4日(水)

13:00~16:30

会場:ピアザ淡海

京都消費者問題セミナー

日時:2015年2月19日(木)

10:00~12:00

会場:ハートピア京都4階

京都発!

「食とみどりのサイエンスNOW」

日時:2015年2月21日(土)

13:00~15:00

会場:京都府立植物園

発行:京都府生活協同組合連合会 〒604-0851 京都市中京区烏丸夷川東南角 せいきょう会館2階
TEL:075(251)1551
URL: http://www.kyotofu-seikyoren.com E-mail: kyotofu.seikyoren@mac.seikyoren.jp